

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 9 番

氏名 柳 楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 認知症支援について

(1) 行方不明対策について

認知症が原因で令和5年に全国の警察へ届け出のあった行方不明者は、前年より330人多い1万9,039人。その内、年内に所在を確認できなかった人は250人、遺体で発見された人は502人だったとのことである。

- ① 認知症が原因の浜田市での行方不明者の人数を伺う。
- ② 行方不明者対策として、現在の浜田市の取組を伺う。
- ③ GPS 端末を活用した認知症徘徊を見守るサービスもある。介護保険適用の自治体もあるようだが、浜田市での活用の可能性を伺う。

(2) ユマニチュードの普及について

認知症と軽度認知障害の方を合わせて1,000万人を超える状況である。記憶障害や認知障害が起こる中で、当事者や家族などの不安から、行動・心理症状(BPSD)の発生によって人間関係が損なわれることもあることから、この症状を抑制することが重要である。

- ① 「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱で、相手が理解できるように届けるケア技法「ユマニチュード」が注目されている。認知症の人、介護する人の双方にとってメリットが生まれるこの技法について知っていただくため、市民講座を開催することは考えられないか伺う。
- ② 介護現場での活用により、介護士の負担軽減につながったとのことである。介護人材が不足する中では有効な技法と考える。浜田地区広域行政組合と連携して、介護施設等にもこの技法を普及する考えはないか伺う。

(3) 軽度認知障害(MCI)支援について

認知症では早期発見が重要と考える。特に軽度認知障害(MCI)の段階で発見し、適切な治療や予防を行うことで回復したり、認知症への移行を遅らせることもある。

- ① このほど慶応大学や済生会横浜市東部病院のチームが、認知症のアルツハイマー病や軽度認知障害の疑いがある人に対して、「困っていることはあるか」「楽しみはあるか」「最近の気になるニュースは何か」の3つの質問による検出手法を開発したとのことである。介護施設等でも実施できることから早期発見につながると考える。今後この手法を活用する考えはないか伺う。
- ② 外出機会や人との関わりが減ることにより、徐々に認知症状の低下につながることを家族を通して実感した。人が集まる場所に出ることが難しい人への対策が必要と感じるが、浜田市ではどのような支援が行われているか伺う。
- ③ 厚生労働省がホームページに「あたまとからだを元気にする MCI ハンドブック」というのを掲載している。この活用も有効と考えるが浜田市での活用状況を伺う。

2. GIGA スクール端末の更新について

- ① 浜田市での今後の GIGA スクール端末更新の流れを伺う。
- ② 端末の処分については、文部科学省、経済産業省、環境省の3省合同通知で示された方法で端末が再使用・再資源化されなかった場合、第二期端末購入の補助要綱に非該当となることが懸念されている。浜田市の処分はどのようにされるのか伺う。

3. 防災・減災の取組について

6 月定例会議の一般質問で宣言した、三重県紀宝町のタイムライン防災を学ぶため、10 月 3 日に公明クラブの会派視察を行ったので、その内容を参考に質問を行う。

(1) タイムラインについて

- ① 現在、タイムラインを作成している地区はどれくらいあるか伺う。
- ② 紀宝町では地区タイムライン（コミュニティタイムライン）の作成を、自主防災組織を中心に行われており、作成された計画を地区ごとに全戸配布され、共有されている。マイタイムラインの作成の参考になると考えることから、浜田市でも地区タイムラインの作成に積極的に取組むことはできないか伺う。

(2) 次期ハザードマップについて

- ① 紀宝町では、住民によるワークショップを参考に、地震・津波ルールブックを作成し、全戸配布しており、この一冊で必要なことが分かるものにされている。市民にとって分かりやすいことが大事だと思うが、浜田市の次期ハザードマップには住民の意見等は反映されているか伺う。

(3) 新防災情報システムについて

- ① 紀宝町が導入されている新防災情報システムは、防災行政無線とタイムライン防災情報システムから構成されており、タイムラインの行動項目の進捗管理や避難などの意思決定に必要な情報を収集・共有することができ、自主防災組織にもタブレットを配備し、避難所でも活用されている。このようなシステム導入についてご所見を伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

1. 消防署における働き方改革の現状と課題について

近年、働き方改革が全国的な課題となっており、消防署における職員の労働環境改善も重要視されている。当市の消防署では、職員の長時間労働や過重労働の是正に向けた取り組みがどのように進められているのか質問する。

- ① 消防署における働き方改革の現状と具体的な取り組み内容について問う。
- ② 職員のワークライフバランスを向上させるための施策や、労働時間の適正化に向けた対策はどのように行われているのか問う。
- ③ 働き方改革を推進する上での問題点を問う。
- ④ 今後、職員の労働環境をさらに改善し、市民へのサービス向上につなげるための施策を問う。

2. 闇バイト・特殊詐欺被害防止に向けた啓発活動について

近年、SNSやインターネットを通じた闇バイトによる犯罪が増加しており、若年層だけでなく全世代が加害者・被害者となるリスクが高まっている。当市として、市民をこれらの犯罪から守るための啓発活動が必要と考え質問する。

- ① 当市における闇バイト・特殊詐欺に関連する犯罪の実態や被害状況をどのように把握されているか問う。
- ② 全世代を対象とした闇バイト・特殊詐欺による犯罪や被害防止のための啓発活動は現在実施されているのか問う。
- ③ 若者から高齢者まで、それぞれの世代に効果的な啓発方法を検討されているか問う。

3. 美又温泉・旭温泉の更なる誘客を図る戦略について

- ① 市としてPR活動は、どのように展開されるのか問う。
- ② 温泉以外の地域資源と連携した観光プランを検討されているのか問う。
- ③ 地元事業者や住民との連携による観光振興の取り組みはどのように進められているのか問う。

発言No.

7

受付No.

16

令和 6 年 11 月 22 日
9 時 50 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番

氏名 永見 利久

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長
公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、中山間地域等直接支払制度について

生産条件の不利な傾斜地の営農継続を支援する中山間地域等直接支払制度について、加算措置が廃止される「集落協定広域化加算」、「集落機能強化加算」、「生産性向上加算」に関連した質問をする。

(1) 集落協定広域化加算について

他の集落内の対象農地を含めて協定を締結し、協定に基づく活動において主導的な役割を担う人材を確保した取組みなどがある。

① 「集落協定広域化加算」組織の取組み状況について伺う。

② 「集落協定広域化加算」の廃止後の対応について伺う。

(2) 生産性向上加算について

加算の対象となる生産性向上を図る取組みとして、農産物のブランド化・担い手への農用地集積、機械、農作業の共同化・農作業の省力化などがある。

① 「生産性向上加算」組織の取組み状況について伺う。

② 「生産性向上加算」の廃止後の対応について伺う。

(3) 集落機能強化加算について

新たな人材の確保や集落機能を強化する「集落機能強化加算」の対象活動として、インターンシップ、営農ボランティア、農福連携、また、コミュニティーサロンの開設や、地域自治機能強化活動(高齢者の見守り、送迎、買い物支援、雪下ろし等)などがある。

① 「集落機能強化加算」組織の取組み状況について伺う。

② 「集落機能強化加算」で、これまで高齢者の見守りや送迎、買い物支援など営農以外の分野にも取り組んできた。この加算項目の廃止には、集落を維持できるかという不安の声もあるが、廃止後の対応について伺う。

③ 廃止後の、農村型地域運営組織(農村 RMO)との関連について伺う。

④ 新たな加算について、地域への説明について伺う。

⑤ 棚田地域振興活動加算、超急傾斜農地保全管理加算の今後の対応について伺う。

2、美又温泉・旭温泉の振興について

美又温泉、旭温泉は浜田市を代表する観光資源であり、美又温泉は、温泉総選挙で2023年と2024年に「美肌部門」第1位を獲得、また、旭温泉は「歴史・文化部門」で第1位を獲得し、泉質の良さは浜田市民、そして県内外の多くの方々からも認められている。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者の低迷期間が長く続いていたが、昨年感染症5類に移行、活動制限の緩和を受け、美又温泉と旭温泉の観光客も回復傾向と思う。

私は、令和4年に「美又温泉の活性化」について質問している。今回は、それぞれの温泉の、「美肌」、「歴史・文化」をテーマとした観光資源の活用について質問する。

(1)美又温泉における美肌資源の活用について

- ①活動制限緩和後の利用者の状況について伺う。
- ②温泉総選挙「美肌部門」2年連続第1位を生かし、今後新たに「美肌」をテーマとして、入込客を増やす企画やPRについての考えを伺う。

(2)旭温泉における歴史・文化資源の活用について

- ①活動制限緩和後の利用者の状況について伺う。
- ②温泉総選挙「歴史・文化部門」第1位を生かし、今後の企画やPRについての考えを伺う。

(3)美又温泉の活性化について

美又国民保養センター温泉施設の整備は入込客を増すには効果的であると思う。その他に、集客効果に繋がる、宿泊や飲食施設の取組みも必要ではないかと思い質問する。

- ①温泉施設整備に伴う、集客のコンセプトについての考えを伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 ☐市長 ☐教育長 ☐監査委員 ☐選挙管理委員会委員長
(○をつける) ☐農業委員会会長 ☐固定資産評価審査委員会委員長 ☐公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 当市における地方創生の方向性と具体的戦略について

(1) 今回の地方創生 2.0 に対する市長の所見について

- ① 石破総理の就任直後に、片山元鳥取県知事が今までのような国主導で全国一律に地方創生のメニューを用意するのはいかがなものか？財政面も含めて地方の自主性に任せるべきではないかと発言した。たしかに、地方創生の取組には全国の地方から大きな期待もかけられているが、市長は今回の「地方創生 2.0」をどう捉えているか所見を伺う。

(2) 地方創生 2.0 に示される新たな視点に伴う具体的な取組について

- ① 石破総理が地方創生担当大臣であったときに「シングルペアレント支援事業」が評価されたが、この事業の反省点を活かし、今後の人の流れの創出に役立てるべきと考える。特に県立大学、リハカレを有する浜田は人材誘致を推進しやすい素地があるが、当市はもう少し「学園都市」としての戦略を強化すべきでないかと考えるが市長の所見を伺う。
- ② 行政内部のDX推進は当然であり、当市においては中山間地域医療対策の推進のためのDX施策が特に重要と考える。この度、議員有志で当市と類似点の多い網走市の医療マースを視察した。網走市の積極的な挑戦に感銘を受けたが、当市も本事業の有効性判断のための実証実験に取り組む方針はないか所見を伺う。
- ③ 浜田市は「脱炭素宣言」を行ってはいるものの、市民行動と連動しているか多少疑問である。全国的にカーボンニュートラルの実現を目指し、様々な取組が行われている中で、公共施設への再生可能エネルギーを積極的に使用した取組が加速している。福祉環境委員会においても先般、「電力の地産地消」を理念とした地域密着型の再エネ電力会社と意見交換を実施した。地産地消の再生エネルギーを公共施設へ導入する取組は、カーボンニュートラル推進と地域経済の振興に効果的と考えるが、今後の展望に関して市長の考え方を伺う。

2. 「文化のかおるまち」実現へのアプローチについて

(1) 今回の神楽提言書を踏まえた未来に向けた石見神楽振興戦略について

- ① 「神楽伝承館整備」という「ハコモノ」主導から「未来へ石見神楽の何を残すのか」という保存・伝承の在り方に特化した専門委員会が精力的に開催され、19日の委員会で提言書

を全会一致で了承した。今回の提言書作成の過程も含め、市長・教育長はこの提言書をどう受け止めているか伺う。

- ② 今回の提言書の中で、最後まで議論の対象となった「拠点機能」に関して、石見神楽の資料保存及び石見神楽が学べる拠点施設は必要とまとめている。この拠点施設の在り方を含めた提言を市長はどのように具現化していく考えなのか所見を伺う。
- ③ 最も大切な事は、「石見神楽が多くの方々から愛され大事にいただけるための素地を作っていくこと」であると感じている。専門委員会の議論の中でも、行政・経済界・神楽関係者・市民で作る石見神楽振興支援組織のような団体も必要ではないかということがあった。もしくは、私も長らく提案している「石見神楽保存振興基本条例」等の策定も重要と考えるが所見を伺う。

(2) 各地域における図書館を活用した文化のかおるまちづくりについて

- ① ネット通販や電子書籍の普及の影響で全国的に書店が減少しており、地方において書店が一つもない自治体は全国のおよそ4分の1にのぼるといふ。書籍を扱う書店や図書館は地域の文化的インフラと考える。特に紙のページをめくり、活字を通して様々な世界に思いを馳せる読書は、より感性を磨く文化活動と理解している。紙の本に触れることの重要性を学校現場、社会教育現場でどう捉えているか教育長の所見を伺う。
- ② 書店減少による書籍離れは「図書館」がしっかりカバーしていくべきと考える。以前当市で市民要望の一番は図書館建設であった。中央図書館、三隅図書館も昨年10周年を迎えたが、その機能を住民がしっかり享受できているのか？今後図書館基本法にのっとり、地域文化の発信拠点として、魅力ある図書館経営が求められるが目指す図書館像について伺う。

3. 今後の学校給食センター運営の方向性について

(1) 学校給食センター統合計画の今後の展望について

- ① 現在の学校給食事情としては、三隅地域の調理場方式を除き、その他の地域では学校給食センター方式を採用している。なぜ方針決定された「学校給食センター統合計画」が実行されないのか。今後の学校給食センターの統合計画の実行を含め、学校給食供給体制の将来ビジョンに対する見解を伺う。

(2) 地域課題の解決のための学校給食センター活用について

- ① 今後、急激な少子化に伴い、学校給食施設を縮小せざるを得ないのは必然である。学校給食センターを「ハコモノ」の一つとして見るのではなく、公共施設マネジメントの観点から「サービス提供拠点」の一つと見るならば、「学校給食×福祉」「学校給食×コミュニティ支援」等により、地域課題解決の可能性があると考える。今後センターに余力が発生すれば、高齢者配食サービス拠点を併設する等の新施策も考えられるが市長の所見を伺う。

(3) 学校給食費の無償化に対する評価について

- ① 最近、全国的に学校給食費の無償化の取組が加速している。文部科学省の調査では2023年9月時点で全国の30%にあたる547自治体で小中学校の学校給食の無償化が実施されているとあり、近年6年間で約7倍にまで増加している。制度導入の理由は、子育て世代の負担軽減、少子化対策等と言われるが、当市への制度導入に対する市長の所見を伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 7 番

氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者
(○をつける)
員長

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. オーガニックビレッジの推進について

(1) オーガニックビレッジ宣言について

- ① 浜田市では R5 年 4 月にオーガニックビレッジ宣言をした。オーガニックビレッジ宣言の目的を伺う。
- ② オーガニックビレッジ宣言を行い、現時点での成果をどのように捉えているのか伺う。

(2) 有機農業について

- ① 有機米や有機野菜の栽培は実際に取り組みにくいなどと言われている。取り組みがどのように進んでいるのか伺う。

(3) オーガニック給食について

- ① 浜田市で作られた有機米や有機野菜を給食の食材として使用することが増えている。浜田市でオーガニック給食を推進する目的を伺う。

(4) 有機農産物の地産地消の推進について

- ① 地元で採れた有機農産物を地元で消費することの目的を伺う。
- ② 有機農産物の地産地消がどれくらい進んでいるのか伺う。

(5) 他部署との連携について

- ① オーガニックビレッジを推進していくためには、他部署との連携が必要である。他部署との推進体制を伺う。

2. こどもまんなか社会について

(1) 子どもの権利について

- ① 現在、浜田市議会こどもの権利を考える議員連盟や市民団体「広げよう！子どもの権利条約～hamada～」などで「子どもの権利」の推進と実現に向けて活動している。浜田市において、「子どもの権利」をどのように推進していくか考えを伺う。

- ② 子どもはもちろん、大人にも子どもの権利について理解する必要がある。どのように権利学習を進めていくのか考えを伺う。
- ③ 子どもの権利を守るために大人が果たすべき役割を明確にした子ども達への約束として、子ども施策全ての基本となる、子どもの権利に関する条例を策定する必要があると考えるが考えを伺う。

(2) 浜田市こども計画について

- ① 現在策定が進められている「浜田市こども計画」の推進状況について伺う。
- ② 現在策定中の「浜田市こども計画」の一番の肝となる内容について伺う。
- ③ 策定に向けて子どもの意見（アンケート）は、どのように実施されたか伺う。

以上